

所属している新聞社の系列テレビが開局記念に、阪神大震災のドラマを放映するにあたり、取材することになった。物語は、中堅ゼネコンの奥村組が復旧した JR 六甲道駅の実話をベースにしている。

奥村組が担当した
JR六甲道駅復旧工事が
ドラマに！
関西テレビ開局 60 周年大型ドラマ企画
BRIDGE ~始まりは 1995.1.17 神戸~
関西テレビ 8チャンネル (ワジテレビ系列) 全国ネットで放送予定！
2019 **1.15**
火曜 よる
9:00~
動画サービスサイト U-NEXT で
連動コンテンツを配信

関西テレビが開局 60 周年を記念して制作している大型ドラマ企画「BRIDGE～始まりは 1995.1.17 神戸～」は、奥村組が担当した「JR 六甲道駅復旧工事」を題材としています。ドラマはフィクションではありませんが、実際に行われた工事に基づいた物語となっているため、当社は特別協力社として、当時の現場担当者による監修、工事記録や映像・写真等の資料提供など、ドラマ制作に全面的に協力しています。NHK 総合テレビ「プロジェクト X」でも紹介されたこの工事、一体どのようなドラマになるのか、ぜひ、番組放送をご覧ください。

JR 六甲道駅復旧工事
1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分に発生した阪神・淡路大震災。大打撃を受けた JR 神戸線（東海道本線）のなかでも最も被害の大きかった六甲道駅は、駅舎と線路が倒壊し、東西をつなぐ大動脈が寸断される事態となりました。
JR 西日本は直ちに復旧工事に着手し、六甲道駅を担当した奥村組は、持てる知力、体力、気力のすべてを注ぎ六甲道駅をよみがえらせました。
震災からわずか 74 日後の 4 月 1 日、JR 神戸線は通常では考えられない早期開通を成し遂げることができました。そして、その裏側には、厳しい状況に負けず、大きな力を与えてくれた地元住民の方々の温かい支援がありました。



建設が、好きだ。
奥村組
OKUMURA CORPORATION

1 月に放映される JR 六甲道駅の復旧工事のドラマ

六甲道駅は、阪神大震災の震源の淡路島・野島断層から大阪にかけての被災地のちょうど真ん中に位置する。いわゆる、地震の揺れで大きな被害を受けた阪神間の「震災の帯」のただなかだから、いわゆる「グラウンドゼロ」(爆心地)といえるだろう。

10メートルの高さの高架の駅の柱が座屈した。幸い、始発の直前だったため、乗客はおらず、死者はなかった。JRは約3月で復旧を目指した。鉄道の大動脈である東海道線を長期間、不通にしているわけにはいかなかった。乗客は一日180万人にのぼるからだ。その難工事を施工したのが奥村組だった。同社の関係者は「短い工期にあげんとした」と今も口を揃える。

しかし、JRが「3月」といったのは根拠があった。東北新幹線を施工中に宮城沖地震が起き、高架が座屈する経験をしていた。その経験から、コンクリートの破壊実験を繰り返し、高架の梁や床の構造に問題がなければ、ジャッキアップし、柱を直せば復旧すると確信をもっていたのだ。

この短い工期での工事が成し遂げられたのはもうひとつ理由があった。もともと、六甲道駅を造る時に、施工したのが奥村組だった。JRの経験と奥村組の確かな技術力が見事に交差することで、「2年はかかる」といわれた難工事が3月で成し遂げられたのだ。世界でトップクラスの土木、建築の技術力は、災害大国だからこそ根付いたのではないのかと、考えている。

近年、災害が頻発し、「国土強靱化」が叫ばれるが、実はもうすでに実現されている。今いちど、足下にある「日本人の底力」を見直す時なのではないかと思う。

(平成30年11月)